「やってみたい」から「まちの日常」へ！大分市アーバンスポーツまちづくり
～体験・挑戦・交流・にぎわいをつなぐ持続可能なスポーツ環境づくり～

スポまち！表彰2026
㉕大分県大分市

＜目標＞　　**計画期間：**～令和１２年３月３１日

①「やってみたい」→「する・続ける・挑戦する」へ
こども・若者等が日常的に楽しみ、成長できる環境を育てる。
アーバンスポーツ施設利用者数　R11 22,100人

好循環

②スポーツで生まれる人流を、「まちなかの交流・回遊・にぎわい」へ
地域・商店街等とともに創る。
ローカル大会等の開催による参加者数・来場者数　R11　4,000人

＜ＰＲポイント＞

- **「やってみたい」を地域の力に！** 市民の関心を起点に、体験から日常のスポーツ参加、さらに挑戦へつなげる。
- **既存の都市公園に、新たなスポーツの場を！** 都市公園内に、木製セクションを設置し大会と日常利用で循環活用。
- **スポーツを通じて、まちににぎわいを！** 競技団体や商店街等と連携し、継続的な活動と地域の交流・回遊を促進。

＜現状・課題＞

① **若者等が集い、交流するまちなかの魅力づくり**
中心市街地に新たな人の流れや交流を生み出し、さらなるにぎわいにつなげることが必要。
② **「やってみたい」を日常へ**
R5・R6フェスで高い関心、特にスケートボードへの関心と「専用施設がない」との声を確認。ニーズを踏まえR8から施設を供用。
③ **「場所をつくる」から「人・まちを育てる」へ**
競技人口の裾野拡大、日常利用、競技団体主体の運営、施設利用による人流をまちなかの回遊・にぎわいへつなげることが課題。

＜総合的な取組内容＞

「やってみたい」を発掘し、「まちの日常」を育てるステップ

体験・ニーズ把握



R5・R6 アーバンスポーツフェスで体験機会を創出し、市民ニーズを把握。

大会・施設整備



R7・R8九州大会とビギナー大会で「みる」「挑戦する」機会を創出。
スケートボードパーク、3×3バスケットボールコートを供用開始。

日常利用を育てる



施設を活用した教室の開催。
スケートボードパークでは
木製セクションを大会⇔日常で循環。

交流・にぎわいをまちへ広げる

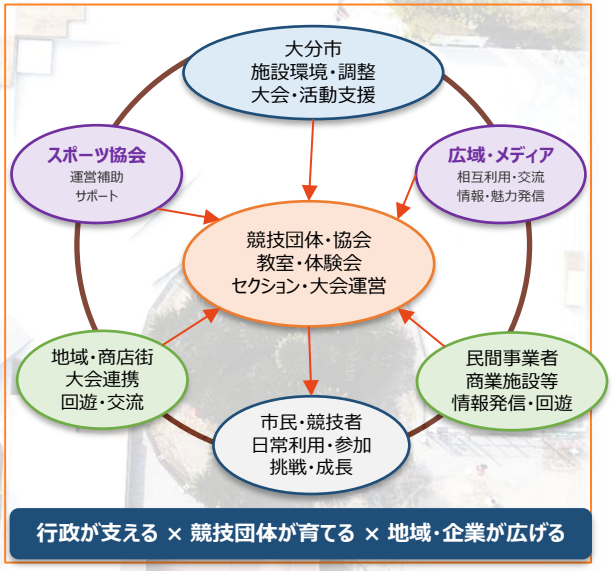


商店街等との大会時の連携を、日常の回遊・交流へ発展。

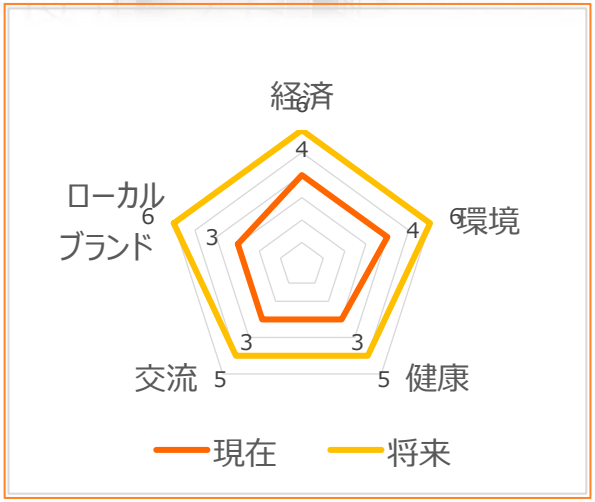
体験から日常へ！スポーツの輪を広げ、まちなかのにぎわいにつなげる

【フォローアップ欄】令和８年度以降における計画の進捗状況

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号
大分市企画部スポーツ振興課
電話：097-537-5650（直通）